

2026 年 11 月
No.497 号

第34回 元気が出る森松展 満員御礼!



たくさんの皆様に
ご来場いただきました。

令和 8 年 10 月 15 日 (木)・16 日 (金)
の 2 日間、「第 34 回 元気が出る森松展」を
開催いたしました。

期間中は、たくさんの皆様に
ご来場いただき、
会場は終始にぎわい、
笑顔あふれる 2 日間となりました。

ご多忙の中、足を運んでくださった
皆さま、誠にありがとうございました。

森松展で生まれた出会いや気づきを、
これからの日々の仕事につなげ、
皆さまのお役に立てよう、
わたしたち社員一同より一層精進して参ります。
今後とも変わらぬご支援・ご愛顧を賜りますよう
お願い申し上げます。

またお会いできるのを
楽しみにしております!

今年もあと 2 ヶ月となりました

森 直樹 (社長)



10 月 15 日、16 日に開催しました第 34 回元気が出る森松展は、2 日間で 299 名、約 300 名の来場者を迎え、盛況のうちに終えることができました。ご来場いただきました皆さまに、心より感謝申し上げます。この 2 日間で多くの来場者の方々と交流し、今後の新たな商機にもつなげることができたと感じています。開会の挨拶でもお話ししましたが、デジタル全盛の現代において、アナログな展示会にはどのような役割が求められているのでしょうか。まずは、現物に触れることです。当然ながら、素材の持つ質感は画像や動画だけでは伝わりません。実際に手に取り、触れていただくことで初めて伝わる価値があります。そして、「ヒトとモノ」の出会いです。新たな商品に触れるだけでなく、来場者同士、出展者同士の出会いが生まれることも、この展示会ならではの魅力です。今後も、より多くの方々にご来場いただけるよう、森松展をさらに充実させ、盛り上げてまいります。さて、今年もあと 2 ヶ月となりました。2026 年も 10 ヶ月が過ぎ、例年のことながら、時間が過ぎるのは早いものです。そして、社会を取り巻く環境も絶え間なく変化し、森松社内でもさまざまな変化が起きています。気持ちよく 2027 年を迎えられるよう、年内に片付けられることは一つずつ終わらせていきましょう。今年は中東情勢の緊張の高まりをはじめ、AI の急速な進化、さらにはそれに伴う不正アクセス事件の増加など、将来への不安を感じさせる出来事もありました。一方で、AI の進化は、人間だけでは発見し得なかったことを見つけ出したり、長年未解決だった課題を解決したりと、私たちの生活にもさらに良い変化をもたらしてくれるものと期待しています。いったい今から 1 年後は、どのような世界が待ち受けているのでしょうか。

長良川鵜飼

M・Tさん（総務・経理）



先日、岐阜県の長良川で行われる鵜飼を見に行きました。長良川鵜飼は、岐阜県岐阜市の長良川で行われる伝統的な漁法です。鵜という鳥を使って鮎を捕る方法で、およそ1300年の歴史があります。現在も観光客に公開され、昔から受け継がれてきた技を間近で見られることが大きな魅力です。開催期間は毎年5月11日から10月15日までで、夏の風物詩として親しまれています。今回は、鵜飼の見学だけでなく、温泉や食事も楽しみたいと思い、鵜飼見学付きの宿泊プランを申し込みました。当日はホテルで夕食を済ませ、専用車で乗船場へ移動し、案内に従って観覧船に乗り込みました。出船すると、船頭の案内を聞きながら川を進み、鵜飼が始まるまで川岸に停泊します。夕方の川はとても静かで、背景にそびえる金華山や岐阜城の景色も美しく、ゆったりとした時間を過ごせました。日が沈んで辺りが暗くなると、開始の合図となる花火が上がり、やがて鵜舟が現れます。船先のかがり火が赤く燃え上がると、辺りの雰囲気が一変します。暗い川面に火の光がゆらゆらと映る様子は、とても幻想的でした。鵜飼の大きな見どころは、鵜匠が鵜を巧みに操りながら鮎を捕らせるところです。鵜が水に潜って鮎を捕らえ、鵜匠が手縄を使って何羽もの鵜を操る様子を間近で見ることができます。さらに、鵜飼の終盤には、複数の鵜舟が一斉に漁を行う「総がらみ」が行われます。鵜舟が横一列に並んで鮎を追い込む光景は迫力があり、鵜飼全体のクライマックスを飾ります。長良川鵜飼の美しさと迫力を最も感じられる場面だと思いました。鵜飼の見学を終えた後は、専用車でホテルに戻り、温泉を楽しみました。初めての長良川鵜飼でしたが、実際に鵜匠の技や鵜舟の動きを見ることで、長い年月をかけて受け継がれてきた岐阜の文化の重みを実感しました。



鳥取砂丘

K・Mさん（企画営業部）



先日、鳥取砂丘へ行ってきました。鳥取砂丘といえば、広大な砂の景色が広がる観光スポットです。砂丘の中央部には、「馬の背」と呼ばれる場所があります。高さ約47mもある大きな砂の丘で、頂上を目指して歩いていきます。実際に登ってみると、これがなかなか大変でした。砂に足を取られながら一步一步進んでいくため、思っていた以上に体力を使いました。往復で約30～40分ほどかかり、登り終える頃には靴の中が砂だらけになります。砂丘を訪れる際は、砂が入っても気にならない靴や服装がおすすめです。しかし、苦勞して登った先には、疲れも吹き飛ばすような絶景が待っていました。目の前には日本海が大きく広がり、砂と海と空が一直線につながるような景色は圧巻でした。風によって砂の表面に描かれる「風紋」も見どころの一つで、自然がつくり出す美しい景色を楽しめます。残念ながら、私が訪れたときは風があまりなく、風紋を見ることはできませんでした。また、鳥取砂丘ではラクダに乗ったり、一緒に写真を撮ったりすることもできます。ぜひ体験してみたかったのですが、訪れたときには受付が終了しており、残念ながら今回は体験できませんでした。次に行く機会があれば、ぜひチャレンジしたいと思います。そして、テレビドラマ「VIVANT」の砂漠のシーンを連想させる場所としても話題になり、砂丘の駐車場に「VIVANT」のロゴをかたどった砂のモニュメントも設置されていました。砂丘に登るのは少し大変でしたが、その先に広がる景色は一見の価値がありました。今回はバスツアーで訪れたため、時間に限りがあり、慌ただしい見学となってしまいました。すべてを見て回ることはできなかったのですが、また個人的に訪れる機会があれば、今度はゆっくり過ごしたいと思いました。



秋の家庭菜園

K・Tさん（東京オフィス）



久しぶりにプランターで家庭菜園を再開しました。以前から少しずつ野菜を育てていましたが、秋になり、イチゴとレタスの苗を植えました。毎日水をやりながら、成長を見守っています。土に触り、苗を植え付けると、なんだか気持ちが少し軽くなる気がします。イチゴは実がなるのを想像するだけで楽しみです。私は果物を食べませんが……。水の加減に気をつけながら、毎日少しずつ成長の様子を観察しています。来春、赤い実が色づく頃には、きっと日々の楽しみになっていることでしょう。息子も「いつ実がなるの？」と何度も聞

いてくるようになりました。一緒に葉っぱを触ったり、土の乾き具合を確認したりする時間が、親子の新しい共通の話題になっています。レタスは比較的育てやすいと聞き、こちらもプランターで挑戦中です。葉がどんどん茂っていく様子を見るのも面白く、サラダにすれば、スーパーで買うものとは違う採れたてのみずみずしさが味わえるはずです。息子は「自分で育てた野菜を食べるのが楽しみ」と言っており、その言葉を聞くと、私も自然とやる気が出てきます。土に触れ、植物の成長を待つ時間は、忙しい日常の中で心を落ち着かせてくれます。うまくいかないこともあるかもしれませんが、それも含めて楽しもうと思っています。家族みんなで、この小さな畑の成長をこれからも見守っていきたいです。



地元のお祭り

K・Tさん（製造部）



8月9日、10日の2日間にわたって開催された柴田まつりに、数年ぶりに行ってきました。学生の頃は友人たちと集まり、よく参加していたのですが、社会人になってからはすっかり足が遠のいていました。今年は友人から誘いがあり、3人で集まって祭りに行きました。現地に着いて最初に思ったのは、祭りの規模が小さくなっていたことです。以前来たときよりも露店の数が減っていて、時代の流れを考えると仕方がないのかなと思いつつ、少し寂しさも感じました。ただ、祭りに来ているお客さんの数は、以前とあまり変わらないように感じました。むしろ、規模が小さくなっても人出は変わらないため、露店が並ぶ通路は人でぎっちり。動くのも大変でした（笑）。また、学生の頃と違い、露店で使えるお金にも余裕ができたので、値段をあまり気にせず、あみだくじや輪投げなど、以前はあまりやらなかったことも楽しみました。露店以外にも出し物の会場があり、メタルバンドやものまねショー、和太鼓のパフォーマンスなど、さまざまなゲストを招いたイベントが行われていました。その中には、スペシャルゲストとして中村耕一さんも出演されていました。生歌、生演奏を初めて聴き、友人たちと「すげー……」と感動していました。さまざまなジャンルの出演者がいたので、幅広い世代の人たちが楽しめる祭りになっていたと思います。こうした地元の祭りがいつまで続くかは分かりませんが、これからも長く続いてほしいと思います。そして、また都合が合えば、友人たちと一緒に祭りを楽しみたいです。



今と昔の「風邪予防」常識と新常識

昔からよく聞く風邪対策。
今の常識は、ちょっと違うかもしれません。
寒くなってくると気になるのが風邪やインフルエンザ。今の知識をもとに、正しい予防法を見直してみましょう。

正しい知識で
これからの季節を
元気に過ごしましょう!

01 風邪には抗生物質が効く?

昔の常識

風邪をひいたら、
抗生物質を飲めば
早く治る。

抗菌薬が必要なのは、細菌による感染症など、
医師が必要と判断した場合です。

今の新常識

一般的な風邪の多くは
ウイルスが原因。
抗生物質は**ウイルス**に
効きません。



02 うがいをしていれば大丈夫?

昔の常識

帰宅したら、
うがいをすれば
風邪を防げる。

うがいは日本で親しまれている習慣ですが、
それだけで風邪を確実に防げるわけではありません。

今の新常識

うがいに頼らず、
**手洗いや換気も
組み合わせる**ことが
大切です。



03 マスクは風邪をひいた人がするもの?

昔の常識

自分が咳をして
いなければ、
マスクは必要ない。

咳やくしゃみが出るときはもちろん、
流行時の混雑した場所や医療機関を受診するときなども、
状況に応じて活用しましょう。

今の新常識

マスクは、周囲への
感染を広げないためにも、
自分を守るためにも
役立つ場面があります。



04 部屋は暖かくしておけば安心?

昔の常識

寒さを避けて、
部屋を暖かくして
いれば大丈夫。

空気が乾燥すると、のどなどの粘膜の
防御機能が低下することがあります。
湿度50~60%を目安に、加湿をしたり、
こまめに換気を行いましょう。

今の新常識

室温だけでなく、
湿度や換気にも
気を配りましょう。



毎日の小さな習慣が、
予防の基本。



手洗い



換気



十分な休息



バランスのよい食事



ワクチン接種
(インフルエンザ)

インフルエンザについては、
ワクチン接種によって発病や重症化の
リスクを下げる効果も期待できます。
できることから少しずつ、元気に過ごすための
習慣を見直してみませんか?

参考：厚生労働省「令和6年度 冬季 急性呼吸器感染症（ARI）総合対策に関するQ&A」
「咳エチケット」 政府広報オンライン「新型コロナウイルスの発生に備えて。」

焼津さかなセンターへ!

O・Sさん（製造部）



先月、家族で焼津さかなセンターへ行ってきました。高速道路を使ってドライブを楽しみながら、いざ海の幸の宝庫へ!到着後は、さっそく場内を散策。珍味がずらりと並ぶお店では、あれこれ試食させてもらいました。こういう場所で食べると、なぜか普段よりおいしく感じるんですね。雰囲気って大事。一方で、冷静に考えると『これ、ちょっと割高じゃない?』と思う商品もちらほら。しかし、せっかく来たのだから細かいことは気にしちゃいけない、旅先の財布は、普段より少しだけ心が広いのだ!と自分に言い聞かせながら、しっかり購入しました。お昼は場内の食事処へ。まずは「かつおの刺身」。鮮度の良さを感じる身はクセがなく、もっちりとした食感で、かつおならではの旨みが口いっぱいに広がります。続いて「本マグロ大トロ・まぐろ丼」。大トロの脂は濃厚ながら口どけがよく、まぐろの旨みを存分に堪能できました。これはご飯が進みます。いや、ご飯が足りなくなるやつです。さらに「大トロと九条ネギのお吸い物」。大トロの脂の旨みがだしに溶け込み、九条ネギの風味がいいアクセントに。濃厚さとさっぱり感のバランスが絶妙で、食事の締めめにぴったりでした。食後には、賞味期限がなんと「3分!?!」という「炎の焼きプリン」を発見。時間制限付きのスイーツとは、なかなか攻めています。もはや食べるというより、時間との勝負。近くのお土産屋さんで実家へのお土産の定番「うなボーンゴールド塩味」を発見。無事、お土産も確保できました。美味しい海の幸を満喫し、買い物も楽しめた焼津さかなセンター。多少お財布にはダメージがありましたが、それも旅の醍醐味ということで。家族で美味しいものを囲む時間は、やっぱりいいものですね。また機会があれば訪れたいと思います。

